

踏み跡 <My Mountains>

北アルプス	船窪岳から野口五郎岳へ	No.178
-------	-------------	--------

職場の後輩の中條君が若年性高血圧に悩まされていた。少し運動をしたらどうか？と勧めた挙句、「山歩きでもしてみないか？」と誘ったら乗ってきた。少々ハードかなと思いましたが、北アルプスの裏銀座縦走に連れていくことになった。私にとっては今年の9月に引き続きさらに南下し、やがて裏銀座の稜線を赤く塗りつぶすプランの一部分。

昭和49年9月24日 <夜行列車で出発→>

新宿発 23時45分アルプス8号。連休が終わった直後の火曜日なのでガラガラに空いている。缶ビールを飲んですぐに眠りに入る。

昭和49年9月25日 <信濃大町→葛温泉→船窪小屋>

信濃大町 6時18分。先を急ぐので次のバスを待たずタクシーを使用して葛温泉へ。(タクシー代 1560円) 葛温泉 6時50分。宿の入り口で朝食のニギリメシを食べて身支度。食事の後、宿の前をぶらぶらしていたら風呂場の窓越しに若い女性の裸体が見えてしまった。

(これは幸運な旅立ちと言うべきか?)

頭上は晴天ではあるが、遠方を見やると海拔 2000m あたりより上は雲の中に隠れている。7時30分出発。

まず最初に驚きの体験、七倉トンネルの通過は何と徒歩で 15分。高瀬川の開発(湯俣付近にダムができるらしい)のために、谷あいの地形はだいぶ変わってしまっている。暗闇を 15分歩くことがどれほどのことかよくわかった。

七倉沢出合い 8時15分着。シャツを着替えて「登りモード」に切り替え、8時30分出発。

1320m 地点 9時20分、軽くひといきついてさらに上へ。

1900m 地点 12時30分。木の根が露出した急な登りが続き、キスリングが肩に食い込み予想以上にきつい。2000m を越えるとガスの中に突入。しかし 2000m を境に紅葉の色づきが黄色から紅色に変わり、きついアルバイトを慰めてくれる。

船窪小屋 16時50分着。以前の船窪小屋は船窪乗越側に建っていたが、新しくなった小屋は七倉岳の手前の稜線にある。冬季用の小屋もあり、新しくてきれいでがっちりしている。今日の宿はここだ。

夕焼けの空に立山から薬師への稜線が並び美しい日没。五色ヶ原の小屋の灯りや立山のロープウェイ駅の灯りもよく見える。槍ヶ岳は雲の中にうっすらと姿を見せている。明日の天気は期待できそうだ。夕食はカレーライス、食後はインスタントコーヒー。中條君にとっては「初めての北アルプス山小屋の夜」。

昭和49年9月26日 <船窪小屋→船窪岳→南沢岳→烏帽子岳

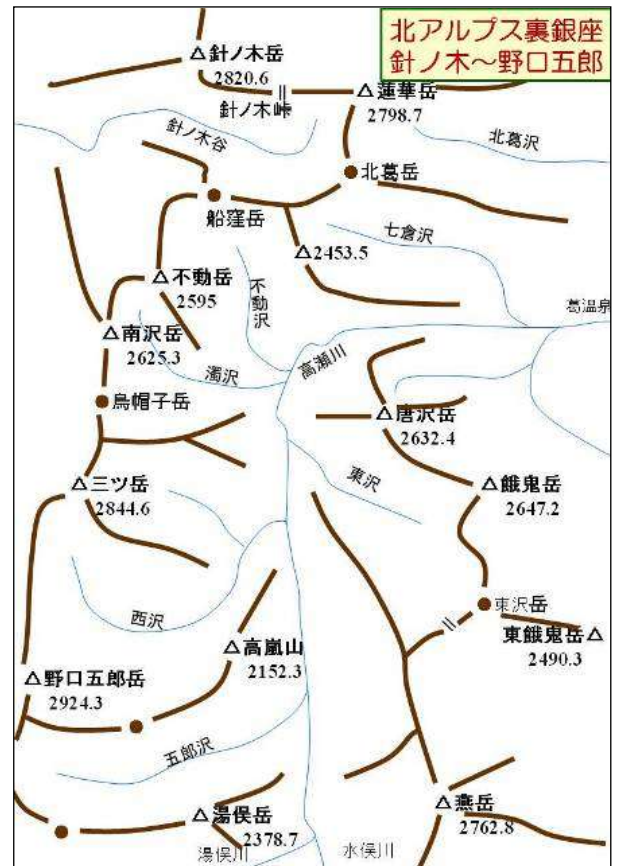
→烏帽子小屋>

起床 5時、天気は晴れ。朝食は餅入りラーメン。身支度を整えて 7時25分出発。船窪乗越 8時10分、10分の小休止をとって槍ヶ岳の遠望を撮影。

(右写真：高瀬川湯俣付近の谷のダム開発が進んでいる様子が見える)

近くなってみると不動岳、南沢岳の大きさがよくわかる。

船窪岳 8時45分、15分の休憩。稜線の南東側は大きく崩壊し、木の根をまたぎ梯子を登り、岩塊を越える難所が続く。5万分の一の地図には表れないような 100m 級のピークが続き、しかも道が荒れている。



踏 み 跡 <My Mountains>

2450m 地点で昼食をとり、不動岳に 14 時 45 分到着。

黒部湖の水面が良く見える。

相変わらず崩壊の連続で歩くのにも疲れる。

南沢岳 16 時 45 分。特徴的な山容の烏帽子岳が目前に迫る。今日の行程の残りは下りだけ。

烏帽子花畑 17 時。池で喉を潤して最後のふんばり。

闇の迫る稜線に烏帽子岳のオベリスクが不気味に霞んで見える。やがて月明の中を歩くようになり、烏帽子小屋に 18 時 30 分到着。

遅くまで歩いてかなり腹が減ったので、大急ぎで豚汁作りに入る。烏帽子小屋の宿泊料金は明朝の朝食付きで 1900 円。

21 時、寝る前に小屋の窓から外を見たら月が出ていた。



昭和 49 年 9 月 27 日 <烏帽子小屋→三ツ岳→烏帽子小屋>

起床 5 時、天気は曇り。小屋の窓からは、黒部の東沢谷を隔てて赤牛岳が大きくどっしりと立ちはだかっているのが見える。小屋の朝食を食べて今日の作戦を検討。

今日の予定は野口五郎岳の往復と決めて、7 時に出発。

歩き始めたら時々小雨がポツポツ落ちてきたが、雲は高めで視界は充分ある。

三ツ岳 8 時。しばらくすると野口五郎が見えなくなってしまい、やがて雨は本降りになってきた。

やむなく野口五郎の往復は断念し、烏帽子小屋に U ターン。

小屋に戻った後は雨を理由に 13 時 30 分まで昼寝。

15 時 30 分青空が見えてきたが、まだ湿気の多いガスに囲まれている。

16 時の気象通報を聞いているうちに晴れてきたので、16 時 30 分からニセ烏帽子まで散歩に出かけることにした。ニセ烏帽子から烏帽子岳を見ることができたのはわずか数十秒程度。また雨が降ってきたので急いで小屋に戻り夕食の支度。夕食の支度とは言っても、昨晚の豚汁の残りなので、準備は早い。

雨はかなり本格的な降りになってきた。19 時 30 分就寝。

昭和 49 年 9 月 28 日 <烏帽子小屋→三ツ岳→野口五郎岳→烏帽子小屋→濁沢→葛温泉>

起床 5 時、強い風でガスが飛び始めている。

出発 6 時 15 分。再び野口五郎岳往復を目指して歩き始めたが、風がかなり強い。北側の山は見えるが南側は目の前の三ツ岳までしか見えない。三ツ岳を過ぎる頃から瞬間風速 20m はありそうな強風。

野口五郎小屋 8 時 03 分。(右写真) 強い風で立ってられないので、冬期小屋に入ってひと休み。

頂上を往復して 8 時 50 分に U ターン開始。

途中で唐沢岳をスケッチして (左スケッチ) 烏帽子小屋 10 時 30 分帰着。小屋の人が出してくれたコーヒーをきっかけにして、早めの昼食。

11 時 30 分烏帽子小屋を辞してブナダテ尾根の下山を開始。

2208.5m 三角点で 50 分の大休止。不動岳と南沢岳が濁沢を挟んで立ち、谷の源頭の大崩壊が加わりさらに迫力を増している。今にも崩壊の音が聞こえそうな生々しい光景だ。(次ページスケッチ)

休憩の後は北東に方向を変えて猛烈な下り。背中をこすりそうな急傾斜の、とにかくひどい下りだ。

濁沢 14 時 20 分。しばらく河原を歩いた後右岸の高巻きを経て林道を横切ると濁沢出合いの橋の下に出た。



踏み跡 <My Mountains>

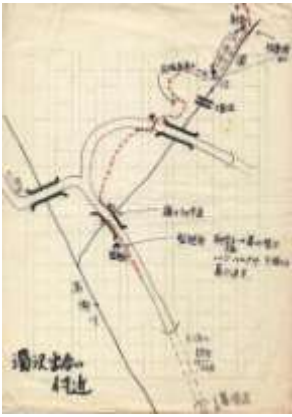



橋のもとにダム工事の監視所がある。ここから葛温泉に向かうには、工事区間を通り抜けるためここでヘルメットを借りて着用しなければならない。そして葛温泉で返却するという決まりになっているという。

決まりに従って工事用のヘルメットを被って歩き始めたが、なんだか座りの悪いものが頭の上に乗っかっていて、しばらくは歩きにくかった。(右写真)

高瀬川沿いの道は工事のために荒れていたり、素掘りのトンネルがあったり、昨年とはまったく異なる景色になっていた。河原で風呂に入ることができた湯俣ももう掘り返されてやがて湖の底に沈んでしまいうちがいない。恐怖感で緊張するような長いトンネルをいくつも潜り抜けて約二時間半で葛温泉に辿り着いた。

今宵の宿は葛温泉、山の温泉で旅の汚れと疲れを落としてひとやすみとする。(一泊二食付き 6000 円) 中條君はこんな高い山へ登ったのは初めての体験だろうが、予想外に頑張れた感じがする。若さの賜物か？ 後日談として話題にできるように、工事中の道路事情の変化を丁寧にスケッチしてきた。(下表参照)



			
濁沢出合い付近	七倉沢出合い付近	葛温泉付近	全体図
高瀬川開発にともなう道路事情の変化の様子			

昭和49年9月29日 <葛温泉→信濃大町→帰京>

葛温泉発 8 時 45 分のバスで大町へ。

信濃大町 10 時 41 分発アルプス三号は 15 時 51 分新宿駅に到着。

以上